

## 「警察 v s 警察官」の出版ご挨拶

このたび、「警察内部告発者」に続いて「警察 v s 警察官」を出版することになりました。

平成 16 年 10 月 23 日、市民オンブズマンの方々のご協力により「明るい警察を実現する全国ネットワーク」（警察ネット）が結成され、これまで愛媛県警の仙波敏郎さん、元長崎県警の大宅武彦さん、元高知県警の片岡壯起さん、元群馬県警の大河原宗平さん、元高知県警の窪内孝志さんの訴訟等を支援してまいりました。

警察相手の訴訟等では、警察側は殊更に彼らの非をあげつらい、裁判所も警察の主張に耳を傾けがちです。彼らにとっては、必ずしも自らの主張が認められるとは限らない先の見えない孤独な闘いが続くこととなります。その間、再就職もままならず経済的にも困窮します。追い討ちをかけるように心ない誹謗中傷や村八分が展開されます。

メディアも巨大な警察組織に立ち向かうこうした現場の警察官やそのご家族の姿を必ずしも正しく伝えてはいません。メディアは、ときには彼らに悪徳警察官のレッテルを貼り、ときには英雄のようにもてはやします。そして必要がなくなれば見捨てます。

私は、この 2 年余の間、彼らと接するなかで報道や訴訟等では知られることがない人間警察官としての悩み、苦しみ、悲しみ、そして、世間の冷たい視線に耐えながら傍で支えるご家族等の不安、悩みなどを知ることができました。

私は、警察の職場をより風通しのよい明るいものにしていくためには、組織防衛最優先の警察上層部の冷酷さと頭のどこかで警察組織を信じながら警察官として生きていく途を絶たれていく現場の警察官の無念さを一人でも多くの人たちに知らせなければならない。そして、それにより彼らの名誉を少しでも回復するのをもまた「警察ネット」の大切な役割ではないのかと考えました。

昨年 6 月、講談社の勧めもあり構想をまとめ 12 月頃には最初の原稿ができました。ただ、窪内さんの事件については、ごく最近のことであり構想に加えることはできませんでした。

その後、講談社の編集者などとも相談し、さらに内容を充実するためそれぞれの事件の現地取材や関係者の方にインタビューをすることになりました。仙波さん、大宅さん、片岡さんについては、ご本人だけではなくご家族や関係者の方からも直接取材をさせていただき、関係する場所も見せていただきました。その際、立ち入ったことや答えにくいことまでお聞きしましたが、それぞれの皆さんから勇断をもった答えをいただきました。この場をお借りして心から敬意を表するとともに厚くお礼を申し上げます。

なお、大河原さんの事件については、諸般の事情で途中から取材などを断念せざるを得ないことになり取り上げることができませんでした。「警察ネット」代表としては、慙愧に耐えないところです。皆さんのご理解をいただきたいと思います。

最終原稿の内容については関係者の方に確認していただき、誤りや過不足についてもご意見をいただきました。関係者の方のご協力に感謝いたします。

最後に、この本の印税は、まことに僅かではありますが「警察ネット」と「仙波敏郎さ

んを支援する会」にカンパさせていただくことにしています。

また、警察ネットの会員の皆さんには、各地の市民オンブズマンの集会などで、「警察内部告発者」とともに「警察 v s 警察官」の販売、宣伝などにご協力をいただけるようお願いいたします。

平成 18 年 7 月 28 日

明るい警察を実現する全国ネットワーク

代表 原田 宏二